

平成 24 年 4 月 23 日 (月) 19:30 ~ 上石津地域事務所 2 階 2-1 会議室  
上石津まちづくり協議会 第 1 回 企画運営委員会

- 1 年間の事業計画について
- 各地区のPRについて



平成 24 年 5 月 20 日 (日) 19:30 ~ 上石津農村環境改善センター和室  
上石津まちづくり協議会 第 1 回 獣害部会

- 獣害対策について

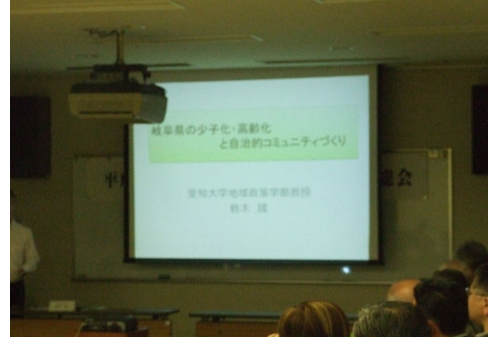


平成 24 年 5 月 30 日 (水) 19:30 ~ 上石津地域事務所 2 階 2-1 会議室  
上石津まちづくり協議会総会

- 平成 23 年度事業報告並びに決算について
- 平成 24 年度事業計画並びに予算について
- 記念講演会 講師：愛知大学教授 鈴木 誠先生

「岐阜県の少子化・高齢化と自治的コミュニケーション」





平成 24 年 6 月 13 日 (水) 19:30 ~  
**上石津まちづくり協議会 第2回獣害部会**

○ 獣害対策研修会 (講師: 岐阜県農政部農村振興課 鳥獣害対策監 酒井義広氏)



平成 24 年 7 月 3 日 (火) 19:30 ~ 上石津地域事務所 2階2-1会議室  
**上石津まちづくり協議会 第1回全体会**

○ 移住・定住についての研修会 (講師: 市議会議員田中孝典氏)



平成24年7月25日(水) 19:30 ~ 上石津地域事務所 2階2-1会議室  
上石津まちづくり協議会 第3回獣害部会

- 獣害対策にかかる補助事業について  
(西濃農林事務所農業振興課担当者及び市農林課担当者からの説明)



平成24年8月7日(火) 19:30 ~ 上石津農村環境改善センター 第1会議室  
上石津まちづくり協議会 第2回全体会

- 獣害対策事業ここまでの経過報告
- 移住・定住について



平成24年8月17日(金) 19:30 ~ 上石津地域事務所 2階2-1会議室  
上石津まちづくり協議会 第4回獣害部会

- 平成25年度獣害対策にかかる補助事業要望について



平成 24 年 9 月 11 日 (火) 19:30 ~ 上石津地域事務所 2 階 2-1 会議室  
上石津まちづくり協議会 第 3 回全体会

○ 移住・定住について

- 1) 岐阜県総合移住相談会 in 名古屋に参加しての感想について
- 2) 今後の体制づくりについて
- 3) 岐阜県月例名古屋相談会について



平成 24 年 10 月 15 日 (月) 19:30 ~ 上石津地域事務所 2 階 2-1 会議室  
上石津まちづくり協議会 第 4 回全体会 (自治会長にも参加を集う)

移住・定住研修会

○ 岐阜県職員による出前トーク

テーマ 交流居住・移住・定住 ~ 移住・定住のすすめ ~

講師: 岐阜県商工労働部観光課 犬飼氏



平成 24 年 11 月 20 日 (火) 19:30 ~ 上石津地域事務所 2 階 2-1 会議室  
上石津まちづくり協議会 第 5 回獣害部会

- 鳥獣害対策の取り組みについて (岐阜大学応用生物科学部 附属野生動物管理学研究センター 鳥獣対策研究部門 横田 隆博氏)
- 獣害マップについて (西濃農林事務所 農業普及課 技術主査 桐井 英幸氏)
- 有害獣の捕獲について (猟友会代表: 大谷嘉昭氏)
- 平成 25 年度獣害対策に係る防護柵設置に向けた確認調査について (市農林課)

平成24年11月24日(土) 13:00 ~ 上石津農村環境改善センター

平成24年度 里なび研修会 in 岐阜県大垣市

主催/環境省自然環境局、共催/上石津まちづくり協議会

○趣旨説明

○開催挨拶

○講義

- (地域の自立を目指して ~福島県鮫川村  
手づくりとお裾分けから始まる地域振興~)  
東京農業大学環境緑地学科 准教授 入江 彰昭 氏

○事例報告

- 参加と交流で育む豊かな郷土づくり ~下呂市竹原地区における取り組み~  
竹原農地・水・環境保全会 野尻花の里済美隊 隊長 河原良昭 氏
- 山林資源をいかした地域づくり  
NPO 法人地域再生機構 理事 森 大顕 氏

○意見交換

里山資源の活用と里の暮らしの再生



平成24年11月27日(火) 19:30 ~ 上石津地域事務所 2階 2-1会議室  
上石津まちづくり協議会 第2回企画運営委員会

- 各部会からの報告
- 各地区の事業について
- 前期を振り返って



## 視察研修 「下呂市竹原地区（農地・水・環境保全向上対策事業）の取組みについて」

平成 25 年 2 月 27 日（水） 7：30 ～ 18：00

平成 24 年度は、先進地域の事例研修として、下呂市竹原地区における「豊かな郷土づくり」を目指して、竹原農地・水・環境保全会の取組みについて視察研修を行った。

この活動で本協議会が学ぶことができた点は、

- ① 農村や農業に対する関心を高めるため、地域の魅力再発見ウォーキング等を継続して実施する取組み。
- ② 非農業者や子供を対象とした農業体験学習や伝統的活動を継続し、将来のリーダーの育成確保を目指している。
- ③ 4 つの地区（野尻・御厩野・宮地・乗政）の活動組織の連携強化を図るため、竹原農地・水・保全会を結成し、情報共有や組織間競争を行っている。
- ④ 景観や施設の整備に加え、みどころガイドマップを作成し、下呂温泉など観光施設などに配布し来訪者の増につなげている。
- ⑤ 野生生物対策のために「野尻鹿亥猿隊」を結成し、防護対策や駆除活動を連携して行い、農業者の生産意欲が減退しないような取組み。

### 【先進地視察記録】

会 場 下呂市野尻公民館

内 容 参加と交流で育む豊かな郷土づくり～下呂市竹原地区における取組み

説明者 のじりはなのさとさいびたい 野尻花の里済美隊 隊長 河原 良昭氏

#### 1) 取組みの経緯・概要と会名への想い

下呂温泉に隣接した人口 700 人余りの野尻地区で、農地・水・環境保全向上対策事業に取り組んでいる。会名にある「花の里」とは、平成 10 年度度から野尻区事業として行っていた「野尻花の里公園化事業」のことで、本団体結成と同時に引き継いでいる。また、「済美隊」というのは「美德を成し遂げるため、子孫が父祖の立派な業績を受け継ぐこと」という意味を持っている。これが私たちの里地里山活動の精神である。

活動目標として①野尻区花の里公園化事業の具現化（都市と農村のかけはし）、②三世代交流事業の推進で社会教育活動と福祉活動を展開、③川の生き物調査や虫追い行事等を通じた環境教育の充実と農村文化の伝承、④「ふれあい農園」活動による生産活動の体験と農家・非農家の交流促進、⑤「青空公民館」での情報交流による資源の発掘とアイディアの交換、⑥広報活動（農地の持つ多面的機能等の普及啓発）を掲げている。休耕田の利活用、獣害対策なども行いながら取組みを進めている。

推進体制としては、役員を中心に構成員それぞれが持つノウハウを有効活用し、その能力を発揮することで会の活動を発展させている。

#### 2) 休耕畑の利活用

休耕畑を利用してふれあい農園を運営している。トウモロコシを中心に、キャベツやハクサイ、ダイコンなどの秋野菜も栽培しており、農家も非農家も施肥や耕し方など農業に

ついて学ぶ場となっている。平成 24 年度はトウモロコシが 2600 本も収穫があり、福祉活動とも連携して、独居老人や高齢者等へもプレゼントすることができた。トウモロコシの茎は牛の餌になっており、翌年は牛舎から肥料としてもらうという仕組みになっている。

### 3) 農村の伝統行事の継続

農村文化も大切な自分たちの資源だと捉えており、これを子ども・孫に伝えるため、虫追い行事をはじめとした様々な行事活動に取り組んでいる。端午の節句の料理としてヨシ巻き団子づくり講習会を実施したり、手づくりの郷土かるたを作成し、郷土学習や高齢者との交流に利用したりしている。その他、芝居小屋、どんど焼き、餅つき大会などを行っている。

### 4) 生き物学習による環境教育

実際に虫や魚などを見せて触らせることで子どもたちに生き物について学んでもらっている。下水道整備やクリーン活動などの成果もあり、イワナ、ヨシノボリ、アジメドジョウなど清流の生き物が増えてきている。

### 5) 地域の環境整備

花を植えることを本会結成以前から続けている。地区ごとにどこにどんな花を植えるか検討し、計画的に植栽を行っている。2 年目から 15 年目に至る長期のスパんで土地の所有者と相談しながら、個人で行うところ、会で行うところなど役割を明確にしながら取り組んでいる。フラワーロード作りや法面へのシバザクラの植栽を行ったり、休憩施設として野尻花の里ギャラリーでの花の作品展を行うなどの活動等を実施している。

### 6) 獣害対策

野尻地区においても獣害の被害は年々深刻なものとなっている。会の有志が「野尻鹿猪猿隊（かいえんたい）」という組織を結成し、トラップワナを中心にイノシシやシカを 3 年間で 100 頭捕獲するなど、獣害低減のための取り組みを地道に進めている。

### 7) 広報・PR 活動

「竹原農地・水・環境保全会かわら版」の発行（年 4 回）、「竹原見どころマップ」の作成発行（年 1 回リニューアル）などにより、広報発信や普及啓発に努めている。マップなどは近隣の観光地である下呂温泉の旅館や観光案内所などにも置いてもらっており、これを見て多くの観光客が訪れるようになった。

### 8) 取り組みの広域展開と今後の展望

こうした地域活動は野尻地区の隣接の地域も含めて広域的に取り組まれている。地域の魅力を再発見するとともに、情報を共有し教育や福祉活動と連携しながら、地域の自然や文化を活用した活動を進めている。近年では保全活動の他、修学旅行の受け入れや特産品開発も進んでいる。

## ○質疑応答

Q、とうもろこしの農園をやってみえますが、猿の被害はどうですか？

A、農園だけは電柵を張っている。周辺には箱罠などを設置している。電柵はバッテリーじゃなく 100V の電圧なので効果が有るのかも、また、ここらは猿は比較的少ないと思う。

Q、箱罠などで捕ったあとの処分はどうしてみえますか？



- A、最初は、猟師に頼んで処分してもらっていた、今は見まねで処分できるようになった。夏場は埋めているが、夏場以外は処分して食べたい人にやっている。
- Q、くくり罠にかかったものはどうしていますか？
- A、銃で撃ってもらっている。(仕留め代 3,000 円を区の予算から支払っている)
- Q、処分についてお聞きしますが、すべてほしい人にあげるばかりではないと思われませんが、その他の処分方法は？
- A、埋めるのはわずかで、個人の誰かに自家用としてあげているのが現状です。
- Q、イノシシの肉は食べれるけど、鹿は？
- A、鹿はジングスカンの味で食べれば意外と美味しいですよ。
- Q、住環境も整ってきたと言われましたが、上石津と比べても子供の数が多いように思われ若い人が多いのかなと感じましたが、最近の人口の傾向はどうですか？
- A、下呂市全体では減ってきている。竹原地区は微減である。住環境がよくなったのと交通アクセスが良く、専業農家以外は下呂温泉で働く人が多い。しかし、下呂周辺には大きな工場はない。またこの地域は近所隣りが良く住みやすい。このため現在下げ止まりってところだと思われま。
- Q、上石津では空き家や高齢者世帯が増えてきているがどうですか？
- A、やはり当地区でも空き家や高齢者が増えてきている。
- Q、いろいろ交流事業をやっておられますが、それにより移住したいとか移住された方がみえますか？
- A、目に見えて入ってくることはないですが、4年程前に京都の若い方で、農業をやりたいという事で県の紹介でこちらにみえて、空き家を買われ農地や資材も借りて専業農家としてやっておられます。子供も2人生まれ、空き家に電気が灯り、農地も耕され蘇ったという例があります。こちらでは専業農家が5軒ぐらいあり農業研修を受け入れてくれている。
- Q、専業農家は米作ですか？
- A、米以外にトマト、ブルーベリー、シイタケなど。中国の研修生などもいて従業員が30名ぐらいの大きな農家もある。そういった研修を受け入れてくれる農家があるので、農業をやられる方にはいいのではないかと。
- Q、専業農家の比率などわかれば教えていただきたい。
- A、専業農家は、野尻地区で5軒、竹原全体でも10軒ぐらいです。あとは兼業農家として下呂温泉などで働きながら農業をやっている方が多い。水稻・トマト・野菜の苗などが主。
- Q、パンフレットを見ているとすごい花がきれいで感心していますが、こういったことから
- A、花はやはり好きな人でないとできない、個人の方で花の好きな人が多かったためにこのような活動ができるようになった。冬以外の3シーズンは何処かで花が見られる。ウォーキングなどやると非常に喜ばれる。今年 JR 東海が主催するさわやかウォーキングが下呂駅で開催されこの地がコースになっている。400人以上の方が歩かれると思う。

(現地視察)

県指定文化財 鳳凰座歌舞伎芝居小屋

(会員35名で毎年5月3日、4日に公演されている。)

野尻地区内 ふれあい農園など一帯

